

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課
担当者名	池田美果
連絡先(電話)	0846 - 62 - 0330

タイトル	基本施策１－（２） 健康づくりと介護予防の一体的な推進
区分(あてはまるものにチェックを)	☒ 自立支援、介護予防、重度化防止 ☐ 介護給付費等適正化

現状と課題			
令和５年度から後期高齢保険が主体となった健康づくりと介護予防の一体的実施事業を開始した。一般介護予防事業との連携や通所Ｃ事業との連携は進みつつあるが、国民健康保険や社会保険との連動が未着手である。また、開始した事業により、口腔機能や栄養状態の詳細が把握できるようになった。 令和５年度の実施結果から本町は口腔機能低下が全国レベルよりやや低下していることと、たんぱく質の適正摂取ができていない方が調査対象者の半数以上いることが分かった。 口腔フレイル対策とたんぱく質の適正摂取対策が必要である。			
第９期（令和６年度）における具体的な取組			
ポピュレーションアプローチ：いきいき百歳体操会場 30 か所に 2 回介入 (1 回目)フレイル状態の把握（体力測定、筋肉量・体脂肪率測定、後期高齢者の質問票＋SRC-F＋栄養 5＋口腔 1 の自己記入式質問票を実施。） (2 回目)健康相談・健康教育（個別結果票（総合・栄養・14 会場は歯科も含む）を作成し、個々に説明しながら返却。16 会場はたんぱく質摂取の栄養講座、14 会場は口腔フレイル予防講座を実施） ハイリスクアプローチ 低栄養（訪問または個別面談）、口腔フレイル予防講座（7 回コース）、健康状態不明者訪問、高血圧未治療者受診勧奨			
目標（事業内容、指標等）			
	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
ポピュレーションアプローチ（フレイル状態の把握）	333 人	335 人	340 人
ポピュレーションアプローチ（健康相談・健康教育）	346 人	350 人	350 人
口腔機能低下者割合	30.0%	28.0%	25.0%
たんぱく質 3 食摂取者割合	43.0%	50.0%	60.0%
口腔フレイル予防講座 実施数	8 人×7 回	10 人×7 回	10 人×7 回
低栄養、または身体的フレイル実施数	2 人（低栄養）	3 人（身体）	3 人（身体）
高血圧未治療者受診勧奨率	100%	100%	100%
目標の評価方法			

年度末実績、自己記入式質問票の集計、口腔フレイルアセスメント結果、

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容		
	令和 6 年度	
ホスピタリティアプローチ（フレイル状態の把握）	3 3 3 人	3 0 会場
ホスピタリティアプローチ（健康相談・健康教育）		
栄養講座「たんぱくちょい足しの工夫」	1 9 3 人	1 6 会場
歯科講座「口腔フレイル」	1 5 3 人	1 4 会場
口腔機能低下者割合	3 0 . 0 %	
たんぱく質3食摂取者割合	4 3 . 0 %	
口腔フレイル予防講座 実施数	8 人×7 回	
低栄養、または身体的フレイル実施数	2（低栄養）	訪問 3、面談 3
高血圧未治療者受診勧奨	1 0 0 %	1 1 人
自己評価結果 【 】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)		
【○】 概ね計画通り実施できた。		
課題と対応策		
たんぱく質の適正の対策は令和5年度に第1弾の取組をしたが、改善していない。令和6年度はタンパク質適正摂取の第2弾の取組を2年間かけて継続的に取り組んでいるため、今後も継続的取り組みをする。 口腔フレイルについても、2年計画の1年目のため引き続き取り組みが必要である。 令和6年度まで取り組んだ低栄養については、課題の多い身体的フレイルに対象を変えて個別指導を行う。 高血圧未治療者の受診勧奨については、受診の確認と再勧奨、または健康状態の把握など継続的な取組が必要。		

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」